

第3回川西学検定 問題・解説書



©川西市 2008

川西学検定はどうだったかな？
問題、答え、解説が書いてあるから
みんなでチェックしてみよう！

川西学検定とは

「川西学検定」は、市民の皆様を楽しみながら川西のことをもっとよく知り、郷土愛を深めていただくとともに、知らなかった川西を再発見していただくことを目的に実施しました。

第3回「川西学検定」は全30問で、25問以上正解された方には合格証をお渡しします。

今回の参加者人数は850人です。多数のご参加ありがとうございました。

川西市 市民生活部 生活活性室 文化・観光・スポーツ課

＜モニュメント＞ 川西市内には色々な像やモニュメントがあります。それぞれの写真のモニュメント、像、場所などを下記のA～Fから選んでください。

問題1 車輪のモニュメント（川西能勢口駅北側） **答え F**

【解説】



「国鉄前線」は、阪急・能勢電鉄「川西能勢口」駅から JR「川西池田」駅前までの 600m という短い路線で、大正 6 年に営業が始まりました。三ツ矢サイダーなどの貨物を「川西池田（旧池田）」駅に輸送する目的で作られ、川西の物産を運ぶのに大切な役割を果たしていました。昭和 56 年 12 月 19 日、「川西能勢口」駅付近の再開発をきっかけに廃線になり、その記念としてこのモニュメントが作られました。

問題2 源満仲公像（JR川西池田駅） **答え D**

【解説】

昭和 63 年、JR川西池田駅が阪急川西能勢口駅とともに川西市の玄関口になり、川西市が「清和源氏発祥の地」であることから、源満仲公の銅像を建立しました。

清和源氏である源満仲公は平安時代中頃の 10 世紀後半、多田の地を拠点にして猪名川上流域を開発し、武士団を形成しました。満仲公の系譜は後の時代の鎌倉幕府、足利幕府、徳川幕府につながることから、川西は清和源氏発祥の地、武家社会発祥の地とされています。



問題3 からくり時計（アステ川西ぴいぷう広場） **答え B**

【解説】

平成元年にオープンした、川西能勢口駅前の再開発ビル、「アステ川西」。1 階から 3 階まで吹き抜けとなったぴいぷう広場にある、からくり時計「ハミングツリー」は、からくり時計になっており、毎時ごとに、鳥が現れてさえずります。アステ川西の待ち合わせスポットです。



問題4 きんたくんの銅像（川西能勢口駅歩行者デッキ） 答え A

【解説】



市内の満願寺、小童寺に、頼光四天王の一人、坂田金時（幼名：金太郎）のお墓があることから、金太郎をモチーフにしたキャラクター、「きんたくん」が平成20年に誕生しました。川西のまちに元気と活力を出すとともに、川西のイメージを高め、住んでいる人がふるさと川西を



誇りに思う気持ちをたくさん持ってもらえるように...という願いを込めています。

このモニュメントは、平成26年3月に、川西ロータリークラブの創立50周年を記念して、同クラブから川西市に寄贈され、アステ川西と川西能勢口駅の間をつなぐ歩行者デッキに設置されました。

問題5 ナイチンゲール像（花屋敷） 答え C

【解説】



この像は、土地の所有者である宗教法人「福田海」(岡山市)の創立者、中山通幽(なかやま つうゆう)さんが、日本赤十字病院で療養中に看護師の手厚い看護に感激し、昭和11年に建立しました。英国、ロンド



ンの聖トーマス病院ナイチンゲール看護学校入り口に立つ像を模して造られたブロンズ製です。

毎年、5月12日にはこの像の前で、ナイチンゲール生誕祭が開催されます。(世界赤十字社が、彼女の功績を称えて、1920年に5月12日を「ナイチンゲール・デー」と定め、日本では1990年に「看護の日」と決めました。)

雲雀丘花屋敷駅下車、東へ約500メートル、「栄根寺廃寺史跡公園」北側。

問題6 川西龍の道（阪神高速大阪池田線延伸部） 答え E

【解説】



「九頭龍(くずりゅう)の伝説」や市域がツツノオトシゴの形に似ていることから、阪神高速大阪池田線延伸部の川西市域部分は「川西龍の道」と名付けられました。大阪方面からみると、照明柱が龍の頭、出入口のスロープが手、高速道路の真下にある歩道橋が足、新猪名川大橋が尾をかたどっています。1,077mの遮音壁には、



ウロコがデザインされています。龍の尾になる、新猪名川大橋「ビッグハープ」は、コンクリート製の斜張橋としては国内最大級。

写真は、歩道橋に設置されている玉を握る龍の手のモニュメントと、遮音壁のウロコです。

阪神高速道路の高架下には、サイクリング道路や公園「ドラゴンランド」が整備されています。

「九頭龍の伝説」とは・・・

源満仲公が大阪・住吉神社に願を掛け「矢を空に向けて射てみよ。そのとどまる所を住まいとすべし」とお告げを受け、白羽のかぶら矢を放つと、空高く五月山を越え、深山に囲まれた湖へ落ちました。九つの首を持つ龍の目にその矢が命中。満仲公が次々と龍を切ると、龍は暴れて山を突き破り、湖水が流れ出ました。やがて水が引くと、多くの田畑が現れました。満仲公は、この地に居城を築き、多田源氏を名乗りました。矢の場所を問いながら訪ね来たことが「矢問」(やとう)の地名の由来になりました。

<特産品>

次の写真を左右の列から1枚ずつ、関係のあるものを組み合わせてください。

問題7 写真=いちじく

答え D いちじくワイン

【解説】

明治42年に榊井光次郎氏がいちじくの苗木をアメリカから持ち帰り、川西の南部地区で新しい品種の栽培に成功し、これが「榊井ドーフィン」と呼ばれています。この品種は、栽培のしやすさと日持ちの良さから全国に広まり、生産されているいちじくの8割を占めています。



川西は完熟・朝採りで知られる国内有数のいちじく産地で、毎年8月にはいちじく即売会が開催され、毎年いちじくを求めて市内外から多くの方が訪れます。

「特産のいちじくを使ってまちおこしを」と平成5年に川西市と川西市農業協同組合（現JA兵庫六甲）が共同で「いちじくワイン」の開発を行い、公募により「川西の朝露」と名付けられました。いちじくを100%使ったワインは、いちじくを搾汁したそのままの琥珀色を帯びたやや甘口の白ワインです。

毎年2月にその年に収穫したいちじくを使ったワインが発売されます。

問題8 写真=台場クヌギ

答え B 菊炭

【解説】

炭の原料となる、クヌギの原木を8～10年周期で輪伐すると、伐採された切り口から新しい枝が何本か成長します。それを繰り返すと、地面近くの幹が異常に太くなり、これを「台場クヌギ」と呼びます。黒川地区には推定樹齢100年以上の



「台場クヌギ」が多く見られます。

市最北部の一庫、国崎、黒川の一帯は、古く豊臣の時代から「一庫炭」「池田炭」として知られた炭の生産地でした。炭の原材料となる良質のクヌギが入手しやすいことや銀銅山が近くにあったことから、室町時代ごろから炭焼きが盛んになりました。炭の断面が菊の花びらのように見えることから、「菊炭」と呼ばれ、火付きと火持ちがよく、たち消えしにくい特徴があり、お茶席用の高級品として全国に出荷されています。

最盛期には約 40 軒あった炭焼き農家は、今では 1 軒が伝統技術を守り続けています。炭焼きは 12 月から 5 月頃まで続けられます。

問題 9 写真 = 平野水工場

答え E 三ツ矢サイダー

【解説】

明治 14 年(1881 年)イギリスの理学博士ガランによって平野の鉱泉が飲料用に適することが発見され、明治 17 年(1884 年)日本で最初の飲料水工場が誕生し、炭酸飲料水「平野水」(ひらのすい)が製造販売されました。「平野水」は現在のサイダーとは違い、無色透明の炭酸水で、夏目漱石も愛飲していたそうです。大正時代には年間 1920 万本という東洋一の生産量に成長し、「御料品製造所」(ごりょうひんせいぞうしょ)という工場では、皇太子御用の平野水が製造されていました。明治 40(1907)年には、味付けした「三ツ矢」印の「平野シャンペンサイダー」を発売。(1968 年、「三ツ矢サイダー」という名称になりました。)



昭和 29 年に炭酸飲料水の製造は中止され、平野鉱泉工場は昭和 42 年にその幕を閉じました。現在は、三ツ矢サイダーの碑が残るだけです。

問題 10 写真 = 桃の花

答え C 桃

【解説】

川西の桃は、早生桃と言って、通常 7 月頃に収穫される桃よりも 1 月早く収穫できる早生品種です。川西の南部地区で主に栽培され、4 月上旬には、加茂地区や久代地区で桃の花が咲き、畑一面は鮮やかなピンク色に染まります。その後、摘花作業や袋かけの作業が行われ、6 月下旬から出荷が始まります。



兵庫県下で早生桃を生産しているのは川西だけとあって、毎年 6 月の出荷時期に開催される桃即売会は大変人気があります。



問題 1 1 写真 = 黒川ダリヤ園

答え A 黒川

【解説】

ダリヤの町として知られる山形県川西町から平成 13 年に友好親善の一環としてダリヤの球根の寄贈を受け、平成 16 年に川西市最北部の黒川の地を本格的なダリヤ育成地として選び、黒川ダリヤ園として地元の人たちの管理協力のもとダリヤが育成されています。

見頃は 9 月下旬から 10 月下旬ごろで、開園期間の日曜日・祝日のみ、能勢電鉄妙見口駅から黒川ダリヤ園行き臨時バスが運行されています。



<歴史・文化財>

3 枚の写真からわかる川西市の代表的な文化財を次ページの A ~ G から選んでください。

問題 1 2 写真 (墨壺 + 木舟 + 勾玉)

答え G 栄根遺跡



+



+



【解説】

JR 川西池田駅周辺に広がる栄根遺跡は、弥生～奈良・平安時代の集落跡で、古墳時代の木舟・勾玉、奈良時代の墨壺が出土しています。なかでも墨壺(県指定文化財)は日本最古級のもので、隣接する川西最古の寺院栄根寺廃寺の創建に使用されたと考えられています。

<文化財資料館>

古代から中世までの市内の遺跡からの出土品が収蔵されており、展示室には約 300 点の出土品が時代ごとに分けて展示されています。入館無料です。

主な展示品には、弥生時代の「栄根銅鐸」のレプリカ、古墳時代後期に造られた勝福寺古墳出土の「画文帯同向式神獸鏡」、栄根遺跡で出土した奈良時代の「墨壺」などがあります。

* 所在地：川西市南花屋敷 2 丁目 13 番 10 号 電話 072-757-8624

* アクセス：JR 川西池田駅 / 阪急電鉄川西能勢口駅から南西へ約 1.3 km、徒歩約 20 分または、阪急バス「南花屋敷」下車、徒歩約 2 分

* 開館：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで

* 休館日：月曜日 (祝日の場合は翌日) 年末年始 (12/28 ~ 1/4)

* 駐車場：普通車 約 20 台、大型バスは要相談

問題 1 3 写真（画文帯神獸鏡 + 銀象嵌竜文刀 + 横穴式石室）

答え E 勝福寺古墳



【解説】

火打の丘陵上に位置する勝福寺古墳は、6世紀初め頃（古墳時代後期）川西市南部を支配した豪族の墓で、平成26年県の史跡に指定されました。明治24年横穴式石室が発見され、画文帯神獸鏡・銀象嵌竜文刀など優れた副葬品が出土しました。

日本の古代国家ができあがった奈良時代、この地域は摂津国川辺郡となり、市域南部は「雄家郷（おべごう）」、中・北部は「大神郷（おおむちごう）」に区分されました。

また、現在の鴨神社、小戸神社、多太神社などは、平安時代に編纂された『延喜式』に記述がみられ、古くから祀られている神社であることがわかります。

問題 1 4 写真（加茂遺跡全景 + 弥生土器 + 竪穴住居）

答え F 加茂遺跡

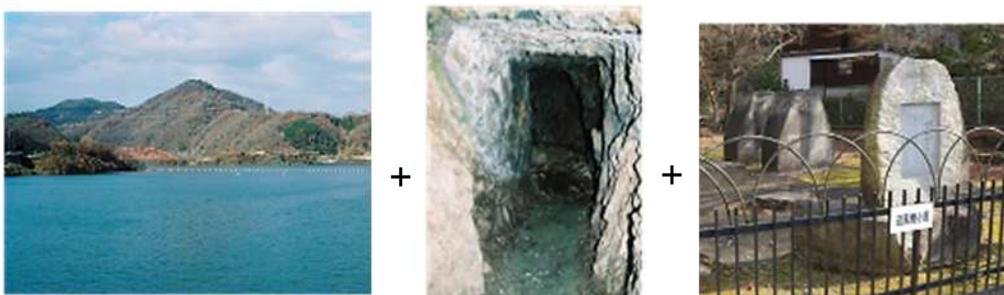


【解説】

加茂・南花屋敷の台地上の加茂遺跡は、旧石器・縄文時代から奈良・平安時代にかけての集落跡で、とくに約2千年前の弥生時代中頃に大規模集落となりました。最盛期には竪穴住居が100棟ほどあり、およそ500人もの人々が暮らしていたと考えられます。平成12年には近畿地方を代表する弥生大規模集落として、国の史跡に指定されました。

問題 1 5 写真（知明山 + 坑道跡 + 川西市郷土館平安製錬所跡）

答え C 多田銀銅山



【解説】

川西市と近隣市町に広がる多田銀銅山は、江戸時代を中心に採掘・製錬が行われていました。市内中・北部には多くの坑道跡が残り、とくに知明山周辺では奈良時代の東大寺大仏鑄造の際の献銅伝説が残されています。山下・下財町も製錬町として栄え、川西市郷土館内の平安製錬所跡では昭和初期まで銅製錬が行われていました。

問題 1 6 写真（随神門 + 拝殿 + 本殿）

答え A 多田神社



【解説】

清和源氏の祖、源満仲公は、10世紀後半猪名川上流域を開発して武士団を形成しました。天禄元年(970)には現在の多田神社の前身である多田院を建立し、没後御廟が営まれたことから、源家祖廟の寺として歴代幕府の崇敬を集めました。

現在の社殿は、徳川四代将軍家綱の再興によるもので、随神門・拝殿・本殿は国の重要文化財に、境内は国の史跡に指定されています。

問題 1 7 写真（山門 + 参道 + 九重塔）

答え B 満願寺



【解説】

奈良時代の創建伝承をもつ満願寺は、平安時代の千手観音像・聖観音像・十一面観音像(いずれも県指定文化財)や鎌倉時代の九重塔(国重要文化財)、発掘調査で出土した室町時代の地鎮具など豊富な中世仏教文化を今に伝える寺院です。また、美女丸三塔や源家七塔などの石塔群は、多田源氏ゆかりの伝説を物語っています。

源満仲公がこの寺に深く帰依したといわれ、歴代源氏一族の祈願所として崇敬を集め、足利幕府の保護によって発展しました。大江山の鬼退治で有名な、源頼光公の四天王の一人、坂田金時の墓があります。

問題 1 8 写真（旧平賀邸 + ひな人形 + 旧平安邸） 答え D 川西市郷土館



【解説】

川西市郷土館は、銅製錬を営んでいた旧平安家の邸宅（大正時代：国登録文化財）を中心として、市南部からの移築した旧平賀邸（大正時代：国登録文化財）、青木・平通両画伯の寄贈絵画を展示している、ミュージアム、レスポアール、アトリエ平通などから成っています。例年2、3月にはひな人形の展示など、年間を通してイベント・講座などを開催しています。

＜歴史・文化財＞左（旧）の列、右（現在）の列から1枚ずつ写真を正しく組み合わせてください。（同じ場所から撮影している写真ではありません）

問題 1 9 写真 = 旧 川西市役所（昭和 32 年完成） 答え E 川西市役所

【解説】

昭和 29 年 8 月 1 日、川西町、多田村、東谷村が合併し川西市が誕生しました。市制施行当時には、国道 176 号線に面した、旧・川西町役場を初代庁舎として使用していました。昭和 32 年、二代目の庁舎が中央町に建設されましたが、老朽化したため、市立川西病院の跡地に平成 4 年、新庁舎を建設しました。



問題 2 0 写真 = 阪急 能勢口駅（昭和 40 年ごろ） 答え C 川西能勢口駅

【解説】

まだ「能勢口」駅という名前の時で、改名直前の写真のようです。昭和 40 年に「川西能勢口」駅と改名されました。

「花屋敷」駅が「雲雀丘」駅と統合され、「雲雀丘花屋敷」駅になったのが昭和 36 年です。



問題 2 1 写真 = 町立川西病院 (昭和 28 ~ 29 年) 答え D 市立川西病院

【解説】

昭和 28 年に川西町立病院となり、昭和 29 年の市制実施後に、市立川西病院となりました。これは小花にあった当時の写真です。

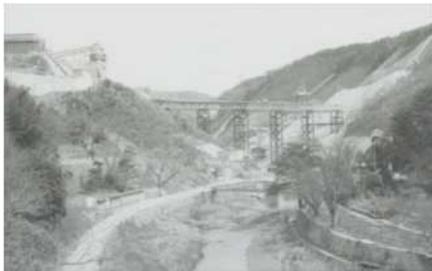
川西病院は、昭和 38 年に中央町の現在の市役所のある場所に移転し、その後、昭和 58 年、現在の東畦野に移転しました。



問題 2 2 写真 = 建設中の一庫ダム (昭和 55 年) 答え A 一庫ダム

【解説】

昭和 43 年 8 月の調査所開設から、昭和 57 年 4 月の竣工まで、14 年の歳月をかけて、一庫ダムは完成しました。たびたび猪名川が氾濫していたことから、洪水調節機能をもったダムをつくり、猪名川の改修と共に洪水の被害を軽減し、併せて渇水時には農業用水、上水道用水としてダムから水を補給、新たに 50 ~ 60 万人分の都市用水を生み出す治水・利水を目的とするダムとして作られました。ダム建設でできた人造湖は、知明湖と名付けられ、ダム湖百選にも選ばれています。



夏休みには、知明湖キャンプ場から子どもたちの歓声が聞こえてきます。四季を通じ、憩いの場として多くの人々に親しまれています。

夏休みには、知明湖キャンプ場から子どもたちの歓声が聞こえてきます。四季を通じ、憩いの場として多くの人々に親しまれています。

問題 2 3 写真 = 多田のこんにやく橋 (昭和 30 年代後半) 答え B こんにやく橋

【解説】

多田駅の西側、矢間から新田に架かっていた橋は、木の板を渡すだけで、渡るとクニャクニャしなることから「こんにやく橋」と呼ばれていました。昭和 30 ~ 40 年代には多くの人々が猪名川で水遊びを楽しんでいました。



現在の「こんにやく橋」は平成 15 年に作られました。

<イベント>

川西で年間を通じて開催されているイベントと写真を下記から選んで組み合わせてください。

問題 2 4

答え F 川西一庫ダム周遊マラソン大会

【解説】



川西一庫ダム周遊マラソン大会は、平成26年で33回目を迎えた歴史ある大会で、毎年11月第3日曜日に開催されます。晩秋深まる一庫ダム知明湖周辺の景観を眺めながら、自然を満喫できるコースです。



種目はハーフマラソン(高校生以上) 10キロ(高校生以上) 5キロ(中学生男子と高校生以上) 3キロ(小学5・6年生男女と中学生女子) 2キロ(小学生と保護者のペア)の部があります。平成26年度は、11月16日(日)に開催され、参加者は2,937人でした。

問題 2 5

答え B きんたくんバル

【解説】

スペインでは軽食やお酒が楽しめるお店を「BAR(バル)」と言います。きんたくんバルでは、毎回70~80店舗が参加しており、ランチなどが楽しめる「昼バル」、酒類と肴で一杯飲む「夜バル」、スイーツやコーヒーなどを堪能できる「おやつバル」、お土産セットなどが用意される「おみやバル」など、川西能勢口周辺で、趣向を凝らしたお得な特別メニューを食べ歩き・飲み歩きできます。毎年、4月、10月に開催しており、次回の開催は4月18日(土)の予定です。



問題 2 6

答え A 川西市源氏まつり

【解説】



源氏まつりは昭和39年から始まり、平成27年で第51回目を迎えます。勇壮な源氏の騎馬武者や少年少女武者、稚児や神輿、ウィンドバンドなど約600人による懐古行列では、華麗な時代絵巻が繰り広げられます。



公募で選ばれた川西観光プリンセスの3名も懐古行列に参加し、木曾義仲とともに、鎧を身に着け薙刀を持って戦ったとされる勇猛果敢な「巴御前」、平安時代末期の白拍子で源義経が兄頼朝より追われたとき吉野山まで行動を共にしたといわれる「静御前」、源義経の母の「常盤御前」に扮します。



平成27年は多田神社周辺で4月19日(日)に行われます。

問題 2 7

答え E 黒川里山まつり

【解説】



「たのしい！おいしい！日本一の里山！！」をテーマに、地産地消のグルメや太鼓演奏、森林整備体験、菊炭窯でのお茶席など、「日本一の里山」黒川地区の秋を満喫できます。川西市黒川公民館、川西市黒川エリア一帯が会場です。

毎年11月に開催されています。

問題 2 8

答え G 東谷ズムと郷土館まつり

【解説】



大正期には多田銀銅山で栄え、華やかな時代のあった東谷。大正ロマンを感じながら、歴史講談や音楽ライブ、北摂のグルメや手作り雑貨が並ぶサトヤマルシェなど、郷土館でモダンな一日を過ごせます。毎年11月に開催されています。

< 川西市郷土館 >



川西市下財町4番1号 072-794-3354

* アクセス：能勢電鉄山下駅下車、徒歩約15分

駐車場は普通車約10台

* 開館：午前10時～午後4時30分(入館午後4時まで)

* 休館日：月曜日(祝日に当たる場合はその翌日)

12月28日～1月4日

* 入館料：一般300円 高校・大学生200円

小・中学生150円(川西市・伊丹市・宝塚市・三田市・

猪名川町の小学生・中学生は無料)

65歳以上の方は一般の半額、障がい者及びその介護者は半額

問題 29 答え C 川西おもろ能

【解説】

けやき坂中央公園の彫刻プロムナードには、日本を代表する6人の彫刻家によって造られた6体の彫刻があります。川西おもろ能が行われる、流政之氏制作の「おもろ座」石舞台は、その場の空間や環境全体を作品化したものです。

この石舞台で、重要無形文化財能楽総合保持者（国指定）である金春穂高さんが、能を演じます。金春（こんばる）流は、金剛（こんごう）、宝生（ほうしょう）、観世（かんぜ）の「大和四座」の中でも最も古い流派で、能楽発祥の地、奈良の春日大社、興福寺直属の流儀です。

川西おもろ能は、平成4年から始まり、毎年10月の第1土曜日に開催されます。入場無料ですが、事前にお申込みが必要ですので、広報かわにし8月号掲載（予定）の要領をご覧ください。8月ごろに文化・観光・スポーツ課へお問い合わせを。



問題 30 答え D 川西まつり

【解説】



川西まつりの会場内には、「はたらくクルマ・のりものブース」で楽しむ子どもたち、「元気な商人PRブース」でお目当ての商品を購入する人々、「うまいもん飲食ブース」で舌鼓を打つ家族、「地産地消野菜の販売ブース」で川西産野菜を品定めする人たち、「フリーマーケットブース」で掘り出し物を探す人、

ステージでのパフォーマンスを楽しむ人たちなどが集まります。多くの方が、お目当ての物を目に、手に、お腹にと笑顔があふれるイベントです。



<プレゼントBコースの千葉県香取市のサツマイモについて>

千葉県香取市は、川西市の姉妹都市です。サツマイモをはじめ、落花生、ネギ、ニラ等が特産です。また、市国際交流協会では、毎年、秋ごろに香取市特産のサツマイモを予約販売しています。今回のプレゼントは「佐原金時さわらっこ」という品種です。



川西市と香取市との縁は、多田院（現：多田神社）を建立した清和源氏の祖、源満仲公の時代にさかのぼります。10世紀中頃、下総国で平将門らが起こした天慶の乱を平定するため、満仲公は帝の命を受け出兵しました。満仲公は香取神宮の傍ら（現在の光明院）に約100日布陣し、その地が摂津国多田庄（現在の川西市）によく似ているところから、この場所を「多田」と名付けました。満仲公の他界後、その訃報が伝えられて下総国に残った源氏一門の手により、光明院に満仲供養（塚）塔が建立され祀られてきました。

昭和51年、テレビドラマ「風と雲と虹と」で話題になったのを機に、川西市と当時の佐原市の交流が始まり、平成2年、姉妹都市提携が結ばれました。平成18年に佐原市・小見川町・栗源町・山田町が合併し香取市となり、平成22年に再度香取市と姉妹都市提携を結びました。

NHK 大河ドラマ「風と雲と虹と」は、昭和51年に放送され、平安時代中期に朝廷に対して反乱を起こした平将門、藤原純友の生き様を描いた物語。

<プレゼントCコースの吉熟カレーについて>

兵庫県で一番歴史のあるいちじくの産地で、「現代いちじく発祥の地」とも言われている川西市。その特産品である「いちじく」をメインに使用したルーは、国産の牛ミンチと玉ねぎなど具たくさんで食べごたえも満点。鶏がらスープとポークビヨンのコクと、いちじくの甘みをバランスよく配合したマイルドな辛さが特徴です。辛さをお好みで調節できる辛味スパイスが付いています。



“地域活性化”を目的として、川西市と大阪青山大学が地域連携協定を締結し、共同開発した商品です。兵庫県の特産品の中から、平成26年度の「五つ星ひょうご」に選定されました。

販売価格 500 円（税抜） 1袋 200g 入り

購入についてのお問い合わせ：

川西能勢口振興開発株式会社 072-755-1516

